

21 織物の剛さ測定に関する一考察 (第2報)

京都女子大 北田 総雄

山名 信子

横超 秀子

1 前報 (昭和 33 年関西支部例会) では織物の曲げ

剛さの測定法中、振動法とクラーク法、及びカンチレバー法とクラーク法間に存在する相関性を実験結果より考察した。

2 今回は引続いて 200 余種の織物の曲げ剛さを、数種の測定方法中からクラーク法、カンチレバー法（前回の測定装置を改良し、垂下長の測定に精度を持たしたもので新たに測定した。）及びハートループ法の方法によって、相互の相関性を調べる為、経・緯・斜方向約 600 枚の試片について JIS に準じて測定し、それらの結果を総合的に統計的考察を加え、各方法間に存在する相関々係の有無を検定し、あわせてそれらの母相関係数を確かめた。

3 その結果、相互の測定方法の間に高度に有意な相関性のあるものはクラーク法とカンチレバー法である。更にこれら織物の腰の強さを主観的に 2 分評価す事によって、剛いもの、軟かいものに有効なそれぞれの測定方法の吟味を試みた。